

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立玉湯小学校）

平成30年9月25日

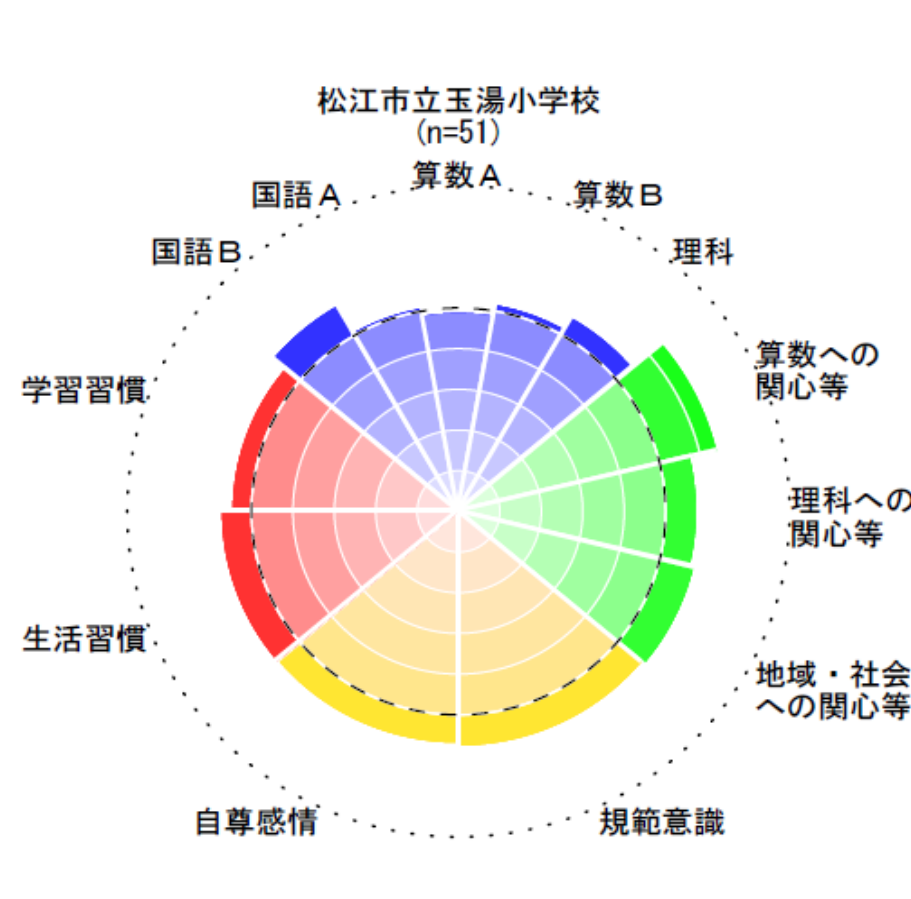
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○図書館への行き方の説明として適切なものを選択する問題や、慣用句の意味や使い方を選択する問題の正答率が高い。 ●漢字の正しい使い方を選択する問題の正答率が低い。 ●主語・述語の関係に注意して文を書く問題の正答率が約5割である。	・普段から漢字を使うことを習慣化し、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるよう指導する。 ・作文をした後、自分で読み直す習慣をつけたり、友達と読み合って推敲し合う活動を取り入れたりする。
	B (活用)	○記述問題の文字数はクリアしている児童が多い。文章を書くことに慣れ、抵抗が減ってきている。 ●複数の資料から必要な情報を取り出し、それを根拠に、目的に合わせた文章を書くことに課題がある。	・キーワードに線を引く、必要な数値に○を付ける等、読み取ったことを視覚化しながら読む習慣をつける。 ・話し合いでも、資料を根拠にして自分の考えを述べることで解決方法を見つけていけるようにする。
算数	A (基礎)	○量と測定の領域の正答率が高く、十進位取り記数法で表された数の大小についての理解ができている。 ●円周率の意味、直径と円周の関係の理解が不十分である。 ●割合を用いて問題を解く際の、問題の意味理解や演算決定の力、百分率の意味するところを量感としてとらえることに課題がある。	・問題の場面を図に表し、演算決定に結びつけていく過程を、様々な問題を解く中で繰り返し取り上げる。 ・生活場面や他教科の資料の中で使われている％について取り上げ、「40％は半数に近い」など、量感としてとらえられるように意識づけていく。
	B (活用)	○問題を解くための方向性や手立てが示されていると、それに当てはめて問題を解くことができる。 ●図形の構成要素をイメージして図形について考えることが難しい。 ●数量を関連づけてとらえることに課題がある。	・図形の構成要素や性質に着目した見方ができるような操作を取り入れる等、算数的な活動を工夫する。 ・問題文を読み解いていく手順を教え、そこに示されている数量がどんな関係にあるのかを視覚化する方法(線分図など)を学習場面で取り上げていく。
理科		○知識面は、ほぼ定着している。 ●複数の資料を読み取ったり、関連づけて考えたりすることに課題がある。	・単元を横断するような教材を用意し、複数の資料の見方を学んだり、それらを関連づけて考える場を設けたりする。 ・日常の事象と関連づけて考える場を設ける。

(2) 生活意識調査から見られた傾向

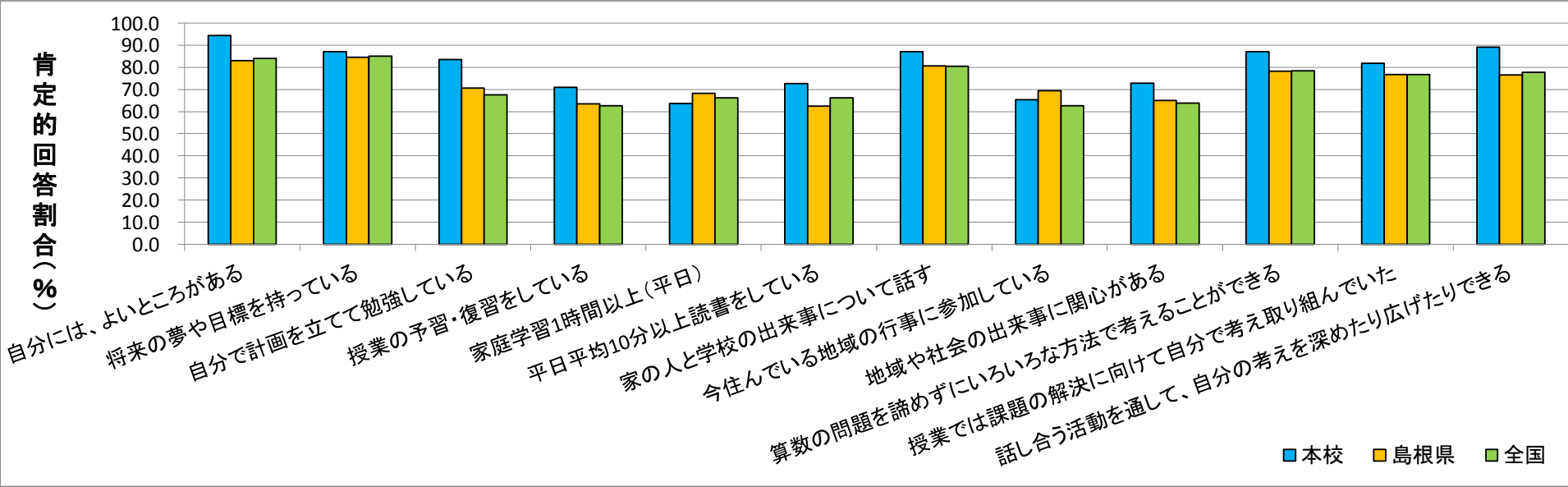
		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
		○学習に意欲的に取り組んだり、新しい問題に出会ったときに解いてみたいと考える児童の割合が多い。算数が好きだと答えた児童の割合が、昨年度は60％以下だったが、本年度は78％に増加した。 ●どの児童も地域の行事に参加しているはずなのに、「参加している」と答えた児童は70パーセントを下回っており、参加意識が持てていない。 ●家庭学習の時間が1時間に満たない児童が3割以上いる。	・総合的な学習の時間に地域を題材とした学習を行い、自分たちが住んでいる地域について調べたり、それを表現したりする活動を行うことにより、興味関心や意識を高めていく。 ・「ぐんぐんタイム(家庭学習強化週間)」のシートへの記入結果を、個別の声がけ等に活用する。

(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・確かな学びのために、対話型の授業づくりに努める。
- ・学びの基本ルールの確認を行う。
- ・「聞く力」や「質問する力」を育てるために、全校で「ペア対話」の時間を設け、スキルトレーニングを行う。
- ・ノートの取り方についての基本ルールや、必ず書く内容等をプリントにして児童にも示し、全校で取り組むことにより、学力の定着を図る。



【参考】

○平均正答率

		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	71	70	68	70.7
	B	62	57	55	54.7
算数	A	62	62	61	63.5
	B	52	50	49	51.5
理科		64	59	58	60.3

受検者数 51 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。